



一般財団法人  
日本ホメオパシー財団



日本ホメオパシー医学協会

## 報道関係者様各位

2014年10月吉日

**今こそ、有事にそなえる 食、心、命 すべてにホメオパシー！**

10/18,19 第15回 日本ホメオパシー医学協会 (JPHMA) コンgress 開催

**ホメオパシーは科学であり、医学であり、有効な統合医療である！**

10/18 夕 インド・ドクター・バナジー・ホメオパシー研究財団と JPHMA で共同記者会見

拝啓 仲秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、第15回 JPHMA コンgress (ホメオパシー年次学術大会) を2014年10月18日(土)～10月19日(日)の2日間、東京商工会議所ビル4F 東商ホールにて今年も、会員のみでなく下記にて広く一般に公開する形で開催致します。JPHMA は15周年、節目となる記念大会となり、今回は日本の災害や内乱などの有事の時に、いかにして生き抜いていくかをテーマにし、発表していく予定です。今年も、日本全国で活躍するホメオパスたちが、ホメオパシーでの治癒症例をエビデンスとして発表します。東北被災地では、ホメオパシーを使って心と体の危機を乗り越えた体験などを発表します。有事の時には食糧難は免れません。それを見越してホメオパシーを農業に使った自然農の取り組みや、長期間持つ安全なレトルトをつくり、備えていこう、このような活動も発表します。他に心を蝕む不安や恐怖を乗り越えるインナーチャイルド癒しのケースなども発表していきます。



インドから駆け付けてくれるドクター・バナジー親子は、ホメオパシーを使って数々の癌を治療し、アメリカの癌研究所からもお墨つきを、もらっています。今3人に1人が癌になろうとしている中で、副作用のない癌治療は国民に希望を与えるものだと思います。また正しい情報として、今、日本がどのようになっているかを研究している方々からの発表もあり、私たちはその事実を知ることによって次の行動を決定することができます。また国民には知る権利があります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

敬具

第15回 JPHMA コンgress 大会長  
日本ホメオパシー医学協会 会長  
日本豊受自然農 代表、百姓 由井寅子

記

■日時：2014年10月18日(土) 10時開演 (※共同記者会見、懇親会実施) 19日(日) 9時半開演

■場所：東京・二重橋 東商ホール (4F) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2 TEL: 03-3283-7500

■テーマ：「今こそ、有事にそなえる 食、心、命 すべてにホメオパシー！」

※詳細は第15回 JPHMA コンgress 特設サイトを参照ください <http://jphma.org/congress2014/index.html>

■主催：一般財団法人 日本ホメオパシー財団 日本ホメオパシー医学協会 (JPHMA)

問合わせ先：日本ホメオパシー医学協会 担当：小島、倉元 〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-2-3 矢藤第三ビル

TEL: 03-5797-3073 FAX: 03-5797-3074 Mail: [office@jphma.org](mailto:office@jphma.org) URL: <http://jphma.org/index.html>

【2014年10月14日版】第15回 JPHMAコンgress ホメオパシー学術大会 第1日目 10月18日(土)

時間	プログラム	出演
9:15	開場・ブース	※JPHMA会員の方はボランティア募集中です！
10:00	開会宣言・国家斉唱・開会挨拶・祝辞披露 諸注意	大会長 由井寅子、秦昭二、秋山佳胤他
	災害を乗り越えた福島の子のケース	工藤聖子
	大気汚染への過敏反応が薬の負荷と抑圧した感情を開放する事で改善したケース	船塚千恵
	2人の皮膚症状が改善したケースを通して感じたこと	砂田裕一
	休憩・ブース	
	震災を超えて 果樹農家の主婦、母親、ホメオパスとして	福島市 阿部直美
	震災を超えて 地域のホメオパシー災害対策センターとして	仙台市 高橋阿津子
	震災を超えて 町が全滅した津波被害を乗り越えて	岩手県宮古市田老 梶山永江
	自家採種、在来種、固定種 種から自然にこだわった自然農の取組み	米丸輝久
	豊受オーガニックレストラン、豊受健康常備食への挑戦	本多勝彦
	もうすでに、日本人抹消の戦争は始まっています。真実を知り、対処は口養生とホメオパシーで！	池田整治
	認定証授与式・記念撮影	新規認定ホメオパス、アニマルホメオパス、ファミリーホメオパス、インナーチャイルドセラピスト、ホメオパシー自然農業認定者
	記念撮影(参加者全員)	全員
	昼食休憩 協賛企業ブース&症例ポスター掲示	JPHMA会員は年次総会を実施
	古くから有事への備えを大切にした日本社会、そして今は？	小名木善行
	先端医療とホメオパシーの統合へ	白川太郎
	休憩・ブース	
	がんなど難病へ有効なホメオパシーアプローチ“バナジー・プロトコル”(前半)	ドクター プラティップ&ドクター プラサンタ・バナジー
	今こそ有事にそなえる 食、心、命 すべてにホメオパシー 1 ～癌など難病症例、有事・災害対策、心の問題、農・食etc. ホメオパシー的生き方～	由井寅子
	休憩・ブース	
	パネルディスカッション	バナジー父子、白川太郎、高野弘之、小名木善行、池田整治、由井大会長 他予定
	インド・ドクター・バナジー ホメオパシー研究財団、JPHMA共同記者会見 ホメオパシーは科学であり、医学であり、有効な統合医療である！	ドクター プラティップ&ドクター プラサンタ・バナジー 由井寅子 ※インターネットTVライブ中継を予定
	1日目総括、ホメオパスの唄	大会長 由井寅子
18:50	1日目終了・アンケート回収 ブース	

※プログラム、スケジュール、講師、講演タイトルなどは現時点での情報で変更になる可能性があります。録音・録画・撮影禁止。

第15回 JPHMAコンgress ウェルカムパーティー 10月18日(土)

18:30	パーティー受付開始	
19:00	インド・バナジー父子来日 ウェルカムパーティー【福引あり】 来賓スピーチ、豊受も食材提供、シタール&津軽三味線競演他	会場：東京商工会議所ビル内

【2014年10月14日版】第15回 JPHMAコンgress ホメオパシー学術大会 第2日目 10月19日(日)

時間	プログラム	出演
8:30	会場準備 入館・ブース	
9:00	国家斉唱・開会挨拶・初日ダイジェスト映像 諸注意	由井寅子、秋山理事
	感情の解放とともに過食と長年の便秘が改善したケース	佐藤文子
	無月経排卵の改善から双子の出産まで、効果的にホメオパシーを活用したケース	奥敬子
	どんな療法も届かなかったホメオパシーの深い、深いところまで作用する凄さ	山野希
	休憩・ブース	
	癌など慢性病から命を守る 食について	酒向猛
	がんなど難病へ有効なホメオパシーアプローチ“バナジー・プロトコル”(後半)	ドクター プラティップ&ドクター プラサンタ・バナジー
	(お昼休憩) ★ホメオパシー治癒症例ポスター発表	JPHMA認定ホメオパス
	アトラクション インド伝統楽器シタールと津軽三味線競演	シタール：井上憲司 津軽三味線：山本竹勇
	米、麦、野菜、ハーブ、土づくりなど、レメディを使った自然農への挑	吉田誠
	今こそ有事にそなえる 食、心、命 すべてにホメオパシー 2 ～癌など難病症例、有事・災害対策、心の問題、農・食etc. ホメオパシー的生き方～	由井寅子
	休憩・ブース	
	なぜ、日本に防衛が必要か	田母神俊雄
	パネルディスカッション	バナジー父子、田母神俊雄、小名木善行 由井寅子 他予定
	大会長総評・理事開会宣言、ホメオパスの唄	由井寅子、JPHMA理事
17:10	全プログラム終了・アンケート回収	

※プログラム、スケジュール、講師、講演タイトルなどは現時点での情報で変更になる可能性があります。録音・録画・撮影禁止。

## ホメオパシーは科学であり、医学であり、有効な統合医療である！

10/18 インド・ドクター・バナジー・ホメオパシー研究財団、JPHMA との共同記者会見ご案内



JPHMA会長  
由井寅子



インド・ドクターバナジーホメオパシー研究財団  
ドクター・プラティップ&ドクター・プラサンタ・バナジー

10月18日(土)17時半ごろより、東京二重橋の東京商工会議所ビル4Fにて第15回 JPHMA コングレス初日、最終のパートでインド ドクター・バナジー・ホメオパシー研究財団とJPHMAとでパネルディスカッション・共同記者会見を開催します。

### ★今回の共同記者会見の経緯★

数々の癌をホメオパシーで治癒してきた、ホメオパシーでの癌治療の第一人者、インドのプラティップ&プラサンタ・バナジー博士父子が第15回 JPHMA コングレスで学術発表を行うために来日します。来日にあたり両博士から JPHMA 宛に連絡が届きました。インドの友好国である日本の統合医療の発展に、ホメオパシーを通して寄与したいという希望です。バナジー氏が持つインドでのホメオパシー治療の研究成果(エビデンス)資料を日本政府に提出することで日本で流されているホメオパシーへの事実でない間違った情報を訂正したいという希望。

日本では、「ホメオパシーは科学的でない」「プラシーボ以下」とメディアや学術権威が発表しましたが、インドの医療の実態を知っていれば、これは明らかに間違いとわかります。インドでは現代西洋医学、アーユルヴェーダ医学などともにホメオパシー医学が国の第一医学の1つであり、最近の都市部調査で国民の48%の人口がホメオパシーを健康管理に利用していることが明らかになりました。しかも副作用もなく、国家、国民の医療費負担を減らす優れた面もあると、インドでのホメオパシーの実態を報告したいと両博士は述べておられます。

西洋現代医学では難治の病気を含め、多くの急性、慢性の病気、体と心の病気や不調に対し、大変有効な療法であるホメオパシーについて、コルコタのバナジー父子クリニック(1日千人以上来院)での数多くの治療実績(エビデンス)から報告したいとのことです。これらのエビデンスをまとめたホメオパシー処方『バナジー・プロトコル』として1冊の本にまとめられ、日本語訳も出版されています。他のエビデンスとともに、今回の来日中に厚労省に提出を予定しています。

なお、ドクター・バナジー博士父子の日本政府へのエビデンス提出と記者会見の希望に応えるため、JPHMA では kongress の場を提供します。**10月18日(土)の17:30頃からパネルディスカッションに引き続き、ドクター・バナジー・ホメオパシー研究財団とJPHMA 共同での記者会見を行います。また、記者会見の様子は、Patch TVの協力により、記者会見に先立つ18日(土)のドクター・バナジー父子、由井寅子大会長の発表とともにインターネットでライブ配信されます。当日会場にお越しになれない方もぜひご視聴ください。配信アドレス(<http://www.ustream.tv/channel/patch-tv1>)**

JPHMA では、今回の大会で、広く多くの方にホメオパシーの有効性(エビデンス)を知って頂く為に、政府関係者、統合医療、学術、メディアなどの関係者にも、kongressへの招待状、案内状を送付しております。

なお取材は許可制となっております、参加希望のプレスの方は、添付の共同記者発表会出欠票にご記入の上、取材目的など記載した取材計画書を添付しお申込みください。許可ができましたら、その旨をご連絡いたします。

なお、2日目の田母神俊雄氏の発表は、田母神俊雄事務所からの要望で、プレスの方を含め、一切の録音、録画、撮影禁止が講演の条件となっております。予めご了承ください。

問合わせ先：日本ホメオパシー医学協会 担当：小島、倉元 158-0096 東京都世田谷区玉川台 2-2-3 矢藤第三ビル  
TEL:03-5797-3073 FAX:03-5797-3074 Mail:[office@jphma.org](mailto:office@jphma.org) URL: <http://jphma.org/index.html>



一般財団法人  
日本ホメオパシー財団



日本ホメオパシー医学協会

## ご返信先

**FAX 03-5797-3074**

**E-mail :office@jphma.org**

インド・ドクター・バナジー・ホメオパシー研究財団、日本ホメオパシー医学協会

共同記者発表会 出欠票

お送りしました本状のご返信にて今大会にご招待をさせていただきますのでぜひ、ご返信くださいますようお願いいたします。なお、当日の取材は許可制となっております。ご希望される場合は、プレス名、取材目的を合わせ事前にご申請ください。なお、2日目の田母神俊雄氏の発表は、田母神俊雄事務所より一切の録音、録画、撮影禁止が講演の条件となっておりますので、プレスの方も含めて、録音、録画、撮影、取材はできませんので、予めご了承ください。ご参加をお待ちしております。応援メッセージのある方は合わせてご返信時にお願ひいたします。

日本ホメオパシー医学協会・JPHMA: 担当 小島/倉元

該当箇所に印をつけてください。

記者会見ご出席（出席予定人数 \_\_\_\_\_ 名）

記者会見はインターネットTV・ユーストリームにて確認する

学術大会からの参加を希望する。（出席予定人数 \_\_\_\_\_ 名）

18日（土）

時頃より

19日（日）

時頃より

※ kongress取材は JPHMA 理事会の許可制となっておりますので、取材目的を含む、取材計画書とともに、ご提出ください。

18日（土）懇親会への参加を希望する。

※ kongressの参加費は無料となっております。なお、交通費、宿泊費、懇親会費、昼食代は各自ご負担となっておりますので、予めご了承ください。（懇親会費は5000円となります。）

ご芳名 \_\_\_\_\_

ご所属・ご職名 \_\_\_\_\_

ご住所 〒 \_\_\_\_\_

お電話番号 \_\_\_\_\_

FAX 番号 \_\_\_\_\_

Eメールアドレス \_\_\_\_\_

ご同伴の方（ご芳名・ご所属） \_\_\_\_\_

<通信欄>



Japanese Homeopathic Foundation  
一般財団法人  
日本ホメオパシー財団



JPHMA  
JAPANESE HOMEOPATHIC MEDICAL ASSOCIATION  
日本ホメオパシー医学協会

## コンGRESS最新情報は大会特設ホームページリンクからもご覧ください！

▼第15回 JPHMA コンGRESS 特設サイト

<http://jphma.org/congress2014/index.html>

▼大会長（JPHMA 会長 由井寅子）挨拶

<http://jphma.org/congress2014/cat3/>

▼大会長映像メッセージ

<http://www.youtube.com/watch?v=BJmWIN4XhNA>

▼大会長より 発表者公開に当たって

<http://jphma.org/congress2014/2014/10/post-15.html>

▼コンGRESS 両日プログラム(※ポスター症例テーマは大会サイトに掲載 掲示は2日間予定、ポスター発表は2日目昼)

<http://jphma.org/congress2014/cat5/>

▼今年の大会のダイジェスト映像が公開されました！

<http://jphma.org/congress2014/2014/09/13jphma.html>

▼ホメオパシー癌治療の大家バナジー父子紹介

<http://news.jphma.org/2012/01/post-4426.html>

バナジー父子来日を祝し1日日夜演目終了後には歓迎の宴を開きます。豊受自然農の無農薬な安心、安全な農産物や「豊受健康常備食」、都会でも自然農の食材が1人から楽しめる食材も提供、販売もします。

▼パーティーではインド伝統楽器シタールの国際的奏者井上憲司氏と津軽三味線の名手、山本竹勇さんの夢の競演が実現。2日目も大会でのアトラクションでも再現されます。

<http://jphma.org/congress2014/2014/10/post-7.html>

▼イベント内海聡医師&由井会長スペシャルトーク（新宿）YOUTUBE 公開されました！

<https://www.youtube.com/watch?v=56-8iWtzjY&feature=youtu.be>

▼第15回 JPHMA コンGRESS 開催に対してインド大使から祝辞をいただきました。

リンクは今年3月に、由井大会長がインド大使と面会した際の記事（ホメオパシー新聞より）

<http://news.jphma.org/2014/03/post-f84b.html>

▼ホメオパシー ベルギー問題 JPHMA コンGRESSでも提訴応援募金を予定。

<http://jphma.org/congress2014/2014/10/post-17.html>

▼JPHMA 由井会長の呼び掛けで全国的に被害が広がっている子宮けいがんワクチン被害者へのホメオパシー治療法を早期に確立し、被害者家族の経済的困窮を配慮し日本ホメオパシーセンターにて1年間のホメオパシー無料相談を対応、国内外でその改善・治癒症例ケースを発表しています。（記事→<http://news.jphma.org/2013/10/jphma-622f.html>）

コンGRESS当日チャリティー販売される Enjoy Homoeopathy! 缶バッチ収益金は被害者家族の支援のために使われます。

**※小谷宗司(NPO 自然科学研究所理事長)発表は都合によりなくなり、発表テーマは大会長が発表の中でフォローします。**

御嶽神社で今回の噴火で犠牲になられた方々の慰霊祭開催が急遽決まり、地元王滝村で薬草園を営む小谷宗司氏が役としてコンGRESS開催両日出席となった為。発表テーマ「日本古来の薬草栽培復興」は、洞爺、函南町で自然農でのハーブ、薬草栽培復興に取り組む由井寅子大会長本人が基調講演の中でフォローすることとなりました。

## 【参考資料】

ドクター・プラティック・バナジー&ドクター・プラサンタ・バナジー氏について

## ホメオパシーは科学であり、医学であり、有効な統合医療である！

10/18 (土) 二重橋 東商ホール JPHMA コングレスにて、17:30 ごろからのパネルディスカッションに引き続き インド・ドクター・バナジー・ホメオパシー研究財団と JPHMA 共同で記者会見開催へ

「癌におけるホメオパシー治療の歴史を変えた！」医師でホメオパス、インドのドクター・バナジー父子が来日し、10/18,19 東京二重橋・東商ホールで開催される第 15 回 JPHMA コングレスで発表します。ホメオパシーが国の第一医学であり、政府も医療システムとして積極推進するインドからの発表となります。バナジー父子はホメオパシーが統合医療として有効であることを示す科学的エビデンスを持参し、今回の来日時に日本政府の統合医推進部署へ提出し記者会見を希望しておりましたが、これがコンGRESS 会場での JPHMA と共同記者会見という形で、統合医療に関係する政府、学術、プレスの関係者に向けて実施されます。さらに、この模様はインターネット TV で全国にライブ配信されます。

※記者会見インターネットユーストリーム配信アドレス Patch TV (<http://www.ustream.tv/channel/patch-tv1>)

※ドクター・バナジー父子はブータン王室のホメオパシーでの健康ケアを担当。

※来年2月インド政府ホメオパシー中央評議会、JPHMA 共同で日印ホメオパシー国際カンファレンス開。ニューデリーでの国際カンファレンスに引き続き、由井大会長と日本のホメオパスとホメオパシーを学ぶ学生がインド・コルコタのバナジー博士のクリニック訪問も予定。



## バナジー・プロトコルに対する世界的関心

米国国立衛生研究所 (NIH) が、代替医療の施術者の臨床データを評価する「最良症例集積プログラム (Best Case Series Program)」の一環として、われわれのがん治療での成功例について記録を作成するよう依頼してきたのは、1996 年のことである。

われわれは、1998 年に治癒症例の完全な記録を提出した。翌 1999 年には、米国国立がん研究所 (NCI) による精査を経て、われわれの症例発表が承認された。そこで、われわれは、がん諮問機関の 17 人の委員の前で 6 時間に及ぶ発表を行った。諮問機関にはがん治療の専門家たちが含まれていたが、彼らは、ワシントンがん研究所、テキサス大学 MD アンダーソンがんセンター、スローン・ケタリング記念がんセンター、ジョンズ・



日本ホメオパシー医学協会

ホプキンス医療センターなどの、アメリカのすべての一流総合がんセンターから集まっていた。その諮問委員たちが、われわれの発表を満場一致で承認したのである。実に、バナジー・プロトコルの圧倒的勝利だったのである。

それ以来、アメリカから多くの訪問者がわれわれを訪ねてきた。NCIの補完および代替がん医療局の局長で医学博士のドクター・ジェフリー・D・ホワイト、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターの緩和ケアおよびリハビリテーション医学部がん治療科の統合医学准教授であり、統合医学プログラムのディレクターでもあるドクター・モシェ・フレンケル、コロンビア大学から来た、看護学修士、登録栄養士で統合療法プログラムのディレクターであるドクター・エレナ・ラダスと小児腫瘍学科の小児がん患者のための統合治療プログラムのディレクターで医学博士のドクター・カーラ・M・ケリー、同じくコロンビア大学からの方々、現在はサンディエゴ大学に在職し、南カリフォルニア大学の家庭医療学科在職中に5か月間コルカタに滞在してバナジー・プロトコルを学習し、治療にも携わったドクター・バーバラ・サルトル。サルトル女史は、従来型医学の長い経歴を持ち、クラシカル・ホメオパシーの学位も取得している。

PBHRFの活動の重要な側面は調査研究であり、その旗の下に、ドクター・バナジー父子は近年、国際的に有名なアメリカの研究機関、テキサス大学MDアンダーソンがんセンター、コロンビア大学、およびカンザス大学医療センター等との共同研究プロジェクトに携わってきた。1977年以来、バナジー父子は、数々の有名な国際カンファレンス、シンポジウム、セミナー、および会議に招待され、講演を行い、論文を発表し、彼らの仕事の重要な部分について議論してきた。そうして出かけた国は、アメリカ、カナダ、ドイツ、スペイン、ポルトガル、ポーランド、イタリア、ギリシャ、トルコ、日本（横浜で開催された国際腫瘍（オンコロジー）学会で発表）、ブラジルに及ぶ。講演や論文発表とは別に、バナジー父子は多くの学術論文や単行書を世に出した。そのうち最も重要なものは、ホメオパシーの2つのレメディーが正常細胞を活性化する一方で脳腫瘍細胞を破壊することへの有効性に関して、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターと共同で行ったインビトロ（in vitro）研究であり、これは『International Journal of Oncology』の2003年10月号にて公表されている。現在では、ネット上で医学的助言や治療法を探し求める90か国以上の患者が、ウェブサイトwww.pbhrfindia.orgを介してバナジー・プロトコルに従っている。

この数年、スペインがわれわれの仕事にとって非常に重要となっている。バナジー父子とPBHRFは、スペインでのホメオパシー・レメディーの使用を基盤に、バナジー・プロトコルによる治療を普及させることに深く関与し、普及対象はスペイン語を話す他の国々にまで拡大している。これらの国々では、バナジー・プロトコルはすさまじい反響を得ている。また、2008年には、スペインから来たがんサポートチームのメンバー3人が、バナジー・プロトコルを体験から学ぶためにPBHRFに1週間滞在した。そのうち2人はバルセロナ大学の上級職であり、3人目は、バレンシアに拠点を置くがんサポートのポータルサイトを運営していた。このポータルサイトには、スペインに限らず世界中のスペイン語圏の国々から日々1,000人近くが訪れており、バナジー・プロトコルに関する数多くの問い合わせがある。

スペインのホメオパス、薬剤師、患者のバナジー・プロトコルに対する反応は、極めて熱狂的である。2008年、バナジー父子はクラシカル・ホメオパスだけの会議で発表を行ったが、バナジー・プロトコルは熱狂的に歓迎された。また、2人のスペイン人映画制作者の手により、ドクター・プラサンタ・バナジーのドキュメン

タリー映画が現在、制作中である。彼らは、映画制作のためにコルカタとミヒジャムへの滞在を計画している。

PBHRF の運営とバナジー・プロトコルの発展は、ホメオパシーに科学的な基盤を与え、バナジー・プロトコルを科学的調査の対象とした。この点においては、以下の事実が裏付けるように、実質的な進展が達成されたといつてよい。

- ・ バナジー・プロトコルの地位とその科学的根拠に関する決定的な証拠が、米国国立がん研究所、テキサス大学 MD アンダーソンがんセンター、カンザス大学のがん研究所、カンザスの聖ルカ病院の聖ルカ脳腫瘍センター、ニューヨークのコロンビア大学の小児脳腫瘍科といった、権威ある機関に提供されている。

バナジー父子と PBHRF の主要な国際的業績には、さらに以下のものが含まれる。

- ・ 1998 年の症例の提出と、1999 年のアメリカ政府管轄の国立がん研究所

さまざまな種類の悪性腫瘍患者に関する 14 例が、1991 年に開始された NCI の「最良症例集積プログラム」の下に提出された。このプログラムは、がん治療における代替的手法を探し出すとともに、当該プログラムに基づいた治療法を活用する研究プロジェクトを支援するものである。

(これが、アメリカ政府の健康管理機関が、がん治療の探究のために代替療法の一つと提携した史上初めての事例である。また、PBHRF と、NCI の補完代替がん医療局 (OCCAM) および米国国立衛生研究所 (NIH) との間で署名された合意書は、バナジー・プロトコルの肺がん治療における重要性を評価した世界初の公式記録文書となった)

- ・ 2007 年 6 月に、ラトガーズ大学 (アメリカ) で企画された“月開拓に関するラトガーズ・シンポジウム”での“月探査ミッション中の健康障害へのホメオパシー・レメディの使用可能性”についての講演。バナジー父子の講演は、大好評を博した。

なお、バナジー父子のこれまでの臨床成果をまとめ出版されたバナジー・プロトコルは日本でも緊急翻訳され、ホメオパシー出版から 2013 年に日本語版が緊急翻訳出版された。

